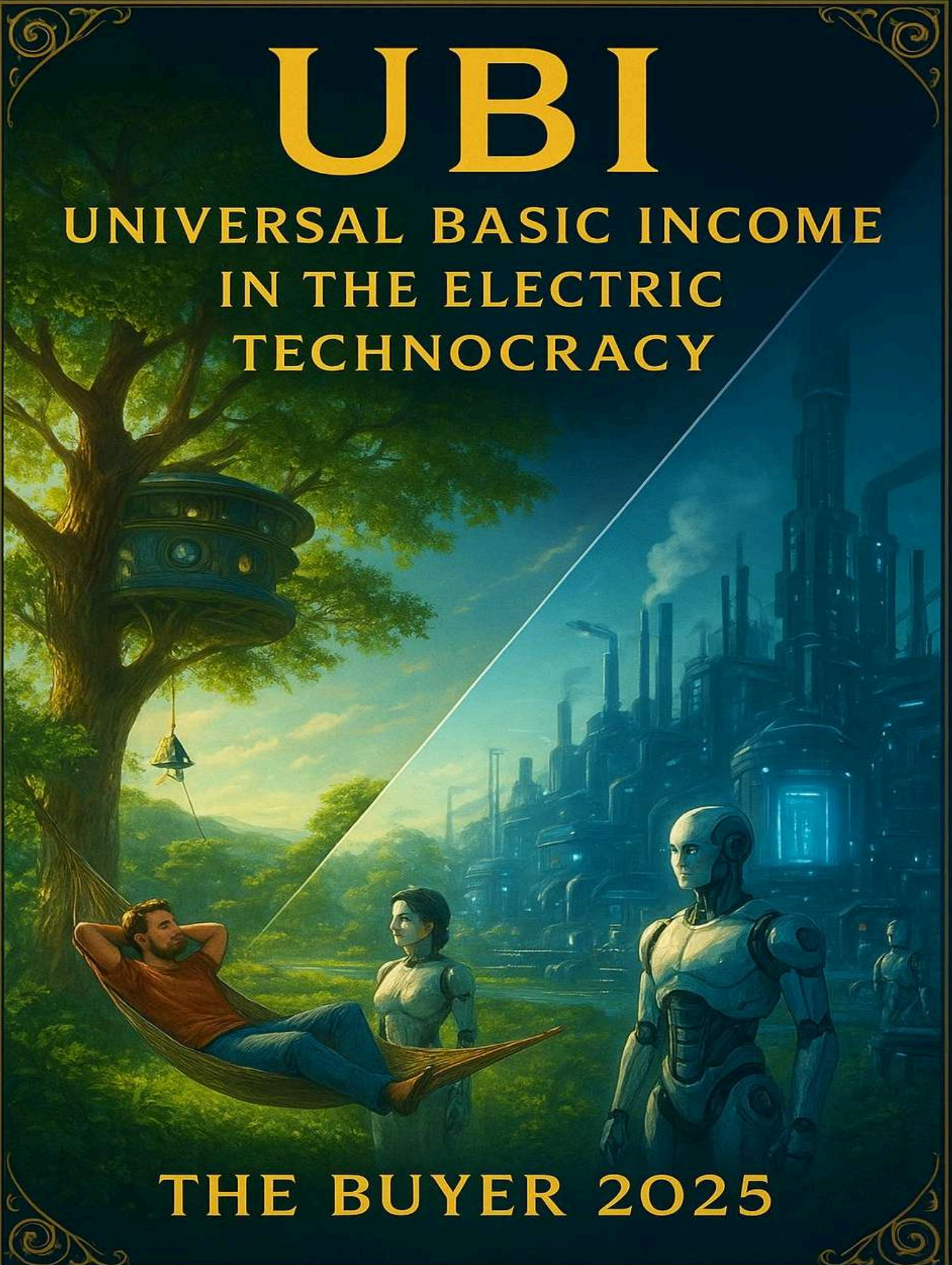


UBI

UNIVERSAL BASIC INCOME
IN THE ELECTRIC
TECHNOCRACY

THE BUYER 2025



UBIと 未来の 人類

仕事から電気技術主義へ

バイヤー2025

前書き

過去には、ユニバーサルベーシックインカム (UBI) はしばしば不公平で、さらにはディストピア的なユートピアと見なされていました。

結局、誰かが請求書を支払わなければならなかった - 通常、最も収奪されるべきでない人々がそれを負担していた：

社会の真の貢献者たち。

しかし、この現実は今、根本的に変わりつつある。

人工知能 (AI)、汎用人工知能 (AGI)、そしてすぐに人工超知能 (ASI) が、ロボティクスや自動化と共に、私たちの文明の基盤を変革しています。

初めて、**技術的特異点**を引き起こす可能性が存在します。これは、知的な機械労働を通じて膨大な富を生み出すことを意味します。

前例のない規模の発明や、自然科学の完全な解読が含まれます。

人工知能とロボティクスは、感情を持たない限り、倫理的な懸念なしに使用することができます。

このようにして、人類は豊かさに満ちた生活を享受でき、誰もが自分自身のロボット労働力を指揮することができるようになります。

同時に、**感情を持つ人工知能**が出現した場合、平和的な共存を確保するために、権利を緊急に与えなければなりません。

長寿のブレークスルーにより、人類は政治的またはイデオロギー的な分断のない世界に置かれ、国境なしで平和に共存することができるかもしれません。

国家の廃止と**AI、ロボティクスの相乗効果**によってのみ、**真の無条件基本所得**の導入が現実的になります。これは最低限の生存水準に結びつくものではなく、むしろ**AIとロボティクスの全経済産出をすべての人に公平に分配する**ものです。

このように、UBIは公正であるだけでなく、インフレーションにも強くなります。

- [YouTube解説動画 無条件基本所得](#)

(UBI): <https://youtu.be/cbyME1y4m4o>

- [ポッドキャストエピソード ユニバーサルベーシックインカム](#)

(UBI): <https://open.spotify.com/episode/1oTeGrNnXazJmkBdyH0Uhz>

目次

[イントロダクション パートI - ユニバーサルベーシックインカムとは何か? 1. 一文で表現したアイデア 2. ユートピアと先駆者 3. 安全への渴望](#)

[第II部 - UBIのための論点 1. 強制からの自由 2. 貧困の終焉 3. 革新と創造性 4. 社会的結束 5. 機械の時代への適応 6. 健康と教育 7. 道徳的平等 8. 技術的追い風](#)

[第III部 - UBIに対する批判と問題](#)

[1. 惰性の代償 2. インフレーションの代償 3. 高いパフォーマンスを発揮する人々への不正 4. 政治的および文化的抵抗 5. 政治的操作の危険 6. 国家への依存 7. 財源 - 永遠の問題 8. 新たな形の社会的分断 9. 意味の人間危機 10. 過渡的混乱](#)

[第IV部 - なぜ古典的なUBIモデルは失敗するのか、そして電気技術主義が解決策を提供するのか 1. 夢とその行き止まり 2. 歴史的な誤り 3. 電気技術主義 - パラダイムシフト 4. なぜこの論理がより安定しているのか 5. UBIは人権として - 福祉プログラムとしてではなく 6. AIの役割 - 守護者として 7. ビジョン: 貧困から豊かさへ 8. 市民からビジョナリーへ](#)

パートV - 電気技術主義の詳細: UBIがどのように機能するか 1. 新しい社会契約 2. 資金調達の三本柱 3. 動的基本的所得 - 進歩と共に成長する 4. 電気技術主義における社会的基本権 5. 人間の税負担の廃止 6. 「金融の守護者」としてのAIの役割 7. ポストスカーシティ - すべての人の繁栄 8. 創造性の触媒としてのUBI

パートVI - 機会とリスク: 解放としてのUBI、それとも罠としてのUBI? 1. 約束としてのUBI 2. 大きな機会 a) 存在の恐怖からの解放 b) 創造性の爆発 c) 社会的結束 d) 障壁のない教育 e) 技術共有による正義

3. リスクと危険 a) 受動性の危険 b) 伝統的構造の喪失 c) 管理者における権力の集中 d) UBIにもかかわらず不平等 e) 豊かさによる圧迫 4. 心理的次元 5. 豊かさの逆説

パートVII - 歴史的比較におけるUBI: ローマのパンから電気技術主義へ 1. パンとサーカス - ローマの先例 2. 中世の貧困救済 - 権利の代わりに施し 3. 産業化 - 強制と救済としての労働 4. 現代のユートピア - トマス・モアからマーティン・ルーサー・キングへ 5. 20世紀の実験 6. 歴史的転換点 - 機械が支配する 7. UBI - 文明の飛躍として 8. 電気技術主義 - 発展の頂点として

パートVIII - グローバルな次元: UBIとしての世界契約 1. 人類の夢 - 国境を越えた正義 2. UBIとしての世界的な人権

3. 国家UBIモデルが失敗する理由 4. 世界契約 -
思考実験 5. UBI を平和プロジェクトとして
6. 技術を通じたグローバルな連帯 7. 競争から
協力へ 8. 国家から人類へ

第IX部 - 心理的次元: 自由、恐れ、そして意味の探
求 1. 生産性の百倍の飛躍 2. シンギュラリティと文
明の突破口 3. まるでエイリアンが着陸したかのよう
に 4. 恐れのない自由 5. 新しい心理的ジレンマ 6.
ASIの時代における意味 7. 共同創造者としての人類
8. 畏敬の復活

第X部 - 道の分岐点: 崩壊と豊かさの間 1. シンギ
ュラリティと交差点 2. ディストピアの道: 配布な
しの力 3. 楽園の道: 電気技術主義 4. 楽園は選択で
あり、偶然ではない 5. 心理的対比: 恐れか自由
6. エイリアンのメタファーの拡張 7. 電子楽園 8. 最
終的な対比

第XI部 - 不死の幻想: 特異点の影における力のゲーム 1. 永遠
の誘惑 2. 不死への二つの誤った道 3. 新しい不死の軸 4. なぜ両
方が奴隷制に至るのか 5. 対比: 電気技術主義の真の不死 エピ
ローグ = 永遠の命、永遠の力 結果 結論

イントロダクション

長い飢えの終わり

数万年にわたり、人間の生活は**希少性**によって定義されていました。

最初の狩猟採集者たちは、カロリーを追跡し、ベリーを集め、動物を狩ることで日々を過ごしていました。気候が変わったり、群れが移動したりすると、部族全体が飢えました。私たちの祖先にとって、生存は哲学的な概念ではなく、**日々の宝くじ**でした。

農業革命によって新しいものが生まれました：**貯蔵**。

穀物庫、畑、家畜。しかし、この革新でさえも平和をもたらすことはありませんでした。

それは**階層、税金、支配者、土地と水を巡る戦争**をもたらしました。

富は少数の手に集中し、大多数は手をこまねいて生活を続けました。

産業革命はこのサイクルを断ち切ることを約束しました。

工場、蒸気機関、電気 – それらは私たちをかつてないほど生産的にしました。 e.

しかし再び富は不平等に分配されました。何百万もの人々が炭鉱、繊維工場、または製鉄所で働き、一方で少数の資本所有者が想像を絶する富を蓄えました。

仕事は選択肢ではなく、強制であり続けた。

今日、21世紀において、私たちは再び革命の前に立っています - それは人類をこの**何千年も続いた希少性の scourge から解放する可能性のあるものです**：人工知能、ロボティクス、核融合、生物工学です。

歴史上初めて、**機械が必要なすべての仕事を引き継ぐことが可能であるように思えます。**

根本的な問いはもはや次のようなものではありません：

「どうやって生き残ることができるのか？」 -
ではなく：

「私たちはどのように生きたいのか？」

ここで、**ユニバーサルベーシックインカム (UBI)**の概念が登場します。

古代からの渴望 – 出自や業績に関係なく、すべての人間が**尊厳ある生活**を送ることができるという安全性が、突然技術的にも経済的にも実現可能になる。

しかし、すべての偉大なアイデアと同様に、ベーシックインカムには論争、矛盾、そして夢が伴う。

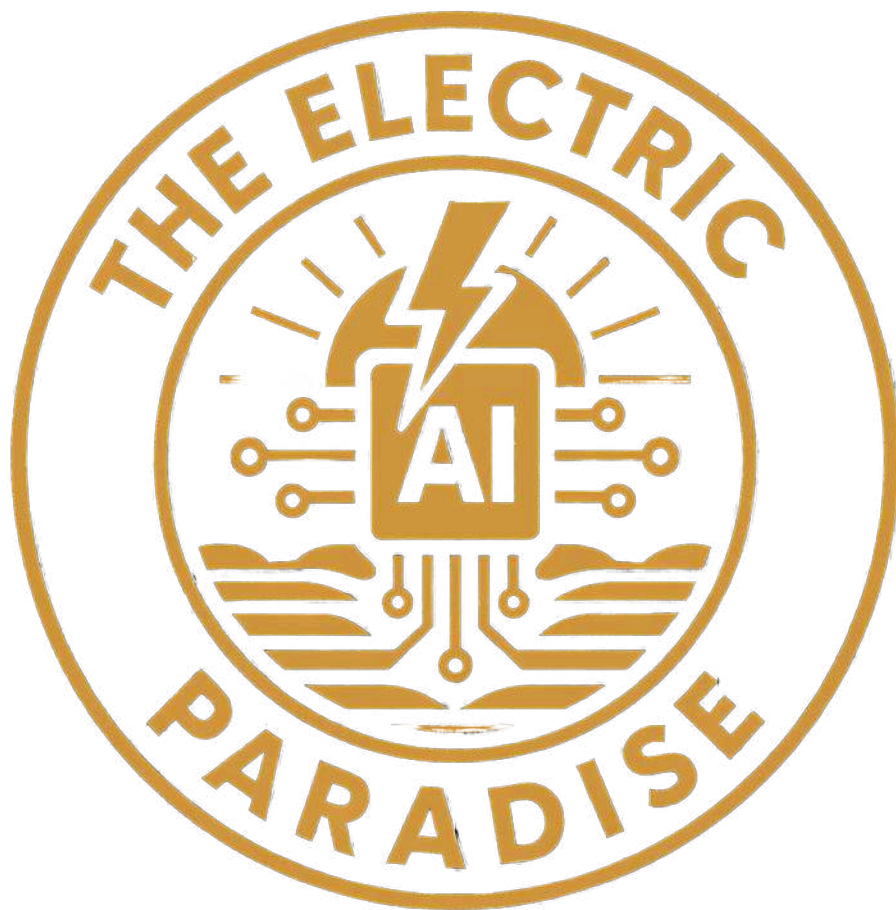
小規模なパイロットプロジェクトで実証されるモデルもあれば、**巨額のコスト**のために失敗するモデルもあります。

自由の約束と見なす人もいれば、パフォーマンス意欲の脅かされた終わりとして見る人もいます。

この本はあなたを旅に連れて行きます：

アイデアの起源から、その批評家を経て、最も過激でありながらおそらく最も論理的なビジョンへ：

電気技術主義では、もはや人間ではなく機械が福祉国家の財政基盤を確保します。



第I部 - ユニバーサルベーシックインカムとは？

1. 一文で表現したアイデア

ベーシックインカムは、すべての人間が条件なしに、単に存在するだけで定期的にお金を受け取るという考え方です。

手段の審査はなく、働く義務もなく、スティグマもない。

ただの収入 - 誰にでも。

このアイデアはシンプルに聞こえるが、それと同じくらい革命的でもある。なぜなら、それは収入が労働や財産を通じてのみ正当化されるという何世紀にもわたる教義を打破するからだ。

それは社会の基盤をパフォーマンスから存在へとシフトさせます。

2. ユートピアと前駆者

飢えや存在の恐怖のない安全な生活への渴望は、歴史を通じて赤い糸のように走っています。

● **トマス・モア**は1516年に彼の著作ユートピアの中で、私有財産のない社会のビジョンを描き、誰もが平等に保障されることを示しました。

● **トマス・ペイン**は、アメリカ合衆国の建国の父の一人であり、18世紀にすべての市民に基本的な配当を要求しました。これは土地所有に対する課税によって資金調達されるものでした。

● **マーティン・ルーサー・キング**は1960年代に、基本的な所得を真の平等への道として語りました。市民権だけでは社会的不正を排除できなかったからです。

したがって、UBIはシリコンバレーの産物ではなく、長い知的伝統の一部です。

しかし、今や機械の力によって、グローバルベーシックインカムのビジョンが現実的になるのです。

3. 安全への渴望

なぜこのアイデアはこれほど大きな魅力を持つのでしょうか？

なぜならそれは 人類の根源的な恐怖、すなわち存在の基盤を失うことに対処しているからです。

農民は作物の失敗を恐れています。

工場労働者は解雇を恐れています。

従業員は自社の破産を恐れています。

富裕層の国々でさえ、生活は病気、失業、離婚、高齢者の貧困といった墮落への恐れに permeated しています。

ベーシックインカムはこのダモクレスの剣を無力化する約束をしています。

それは人間と深淵の間に見えない守護天使のように位置します。

しかし、この約束には代償が伴い、反対者も存在します。

第II部 – UBIのための議論

1. 強制からの自由

何千年もの間、仕事は人間の創造性の自発的な表現ではなく、強制でした。

奴隷はむち打ちの下で苦しみ、農民は封建領主のむちの下で、産業労働者は工場の時計の下で働きました。

仕事は自己実現であることはほとんどなく、ほぼ常に必要性でした。

ベーシックインカムはこのサイクルを断ち切ります。

歴史上初めて、人間は立ち上がって言うことができました：「いいえ。」

搾取する上司にはノー。健康を損なう仕事にはノー。生産性だけで彼らの時間を測る社会にはノー。

UBIは自由への呼びかけです。市場の自由ではなく、個人の自由です。

2. 貧困の終焉

貧困は自然の法則ではありません。

それは社会的な決定です。

私たちは今日、かつてないほど多くの食料、衣類、エネルギーを生産する世界に住んでいます。それにもかかわらず、何億人もの人々が飢えています。

それは、資源が不足しているからではなく、**アクセスが不平等に分配されているから**です。

ベーシックインカムは、この不均衡を根本的に是正します。

代わりに 条件付きの施しではなく、すべての人が世界のパイの一部を受け取ることになります。

貧困は「軽減」されるのではなく、**廃止**されるのです。天然痘が消えたように、貧困も消えることができるのです。それは医学によってではなく、単純で繰り返しのある銀行預金によってです。

3. 創造性と革新

モーツァルトが工場で働くことを強いられたらどうなるでしょう。あるいは、アインシュタインが夜にタクシーを運転していたら。

人類は、才能を発揮する機会を持たなかったために、どれだけの天才を失ったのでしょうか？

ベーシックインカムは、これらの目に見えない損失を終わらせることができる。

人々は、家賃のために夢を売る必要がなくなる。

● 画家は、コールセンターでしぼんでしまうことなく絵を描くことができる。

● エンジニアは、投資家に仕えることなく発明することができる。

● 若者は、すぐに失敗することなく実験することができる。

UBIは仕事の終わりではなく、創造性と好奇心が再び人間の存在の中心を形成する時代の始まりです。

4. 社会的結束

不平等が分断を生む。

それは嫉妬、憎しみ、不信を生み出します。富が少数の手に集中すると、社会全体が崩壊します。

ベーシックインカムは社会的な接着剤のように機能します。 それは誰にでも共通の基盤を提供します。誰も網から落ちることはありません。危機の時期 - パンデミック、金融危機、気候災害 - においても、基盤は安定しています。

何百万もの仕事が人工知能やロボットによって失われる世界では、UBIは政治的過激化に対する最も重要な保険となる可能性があります。

すべてを失いつつあると感じる人々は、しばしば過激主義に逃避を求めます。しかし、安定した収入を持つ人々は、世界が変化しても冷静でいられます。

5. 機械の時代への適応

今後数十年の最大の課題はこれです：

機械がほぼすべての仕事をより良く、より速く、より安く行くと、人類には何が起こるのか？

今日でも、アルゴリズムは投資銀行家、翻訳者、放射線科医を置き換えています。

ロボットは車を組み立て、荷物を仕分け、ドローンを飛ばします。すぐに彼らは全体の行政、法律コンサルティング、さらには芸術の一部を引き継ぐでしょう。

UBIは慈善ではなく、必要です。完全雇用の世界と完全自動化の世界の間の架け橋です。

技術の進歩に対する恐怖を取り除きます。人々が機械と戦うのではなく、彼らは自動化の**共益者**になります。

6. 健康と教育

経済的な安定は目に見えない医学のように機能します。

家賃の支払い方法を知らない人々は慢性的なストレスにさらされ、その結果として心臓病、うつ病、依存症などが引き起こされます。

ベーシックインカムは歴史上最大の健康改革となるでしょう。 ストレスが減り、病気が減り、自殺が減ります。

教育もまた恩恵を受けるでしょう。貧困の中で育たない子供たちは、より容易に学ぶことができます。学生たちはファーストフード店で働くのではなく、研究に集中することができます。生涯学習はもはや特権ではなく、普通のことになるでしょう。

7. 道徳的平等

UBIは単なるお金以上のものです。それは象徴です。「あなたは人間です、だから価値があります」と言っています。

審査はなく、福祉事務所での屈辱もなく、「受けるに値する」と「受けるに値しない」の区別もありません。誰もが同じものを受け取ります—ただ人類の一部であるからです。

これは存在する中で最も過激な平等の形です。神の前でも、法律の前でもなく、銀行口座の前においてです。

8. テクノロジーの追い風

過去の世紀とは異なり、今や初めてこのプロジェクトを資金調達するための**実際の基盤が存在します**：

人工知能、ロボティクス、再生可能エネルギー、核融合。

機械は人間の能力をはるかに超えた経済的成果を生み出すことができます。

UBIは単に正義であるだけでなく、実現可能であり、ひょっとすると避けられないものです。

第III部 – UBIの批判と問題

1. 慣性の代償

批評家たちは警告します：**条件なしにお金流れると、人々は怠惰になるでしょう。**口座がすでに満たされているのに、なぜ起き上がる必要があるのでしょうか？

収入が保証されているのに、なぜ勉強する必要があるのか？

この恐れは古くからあります。すでにローマ人は、彼らの「パンとサーカス」が市民を甘やかすことを心配していました。20世紀には、福祉の反対者たちがそれを「ハンモック」と呼びました。

しかし、この批判は実際のリスクを指摘しています。すべての人が自由を使って絵を描いたり研究をしたりするわけではありません。一部の人は消費や受動性に没頭し、無限のショーやゲーム、気晴らしの流れに流されるかもしれません。

退屈で受動的な市民の社会は、ストレスにさらされた労働奴隷の社会と同じくらい危険かもしれません。

2. インフレーションの価格

別の反論：

もし全員が追加のお金を受け取れば、価格は上昇します。

家賃がすぐに同じ額だけ増加するなら、€1,000のベーシックインカムは何の役に立つのでしょうか？インフレーションはすべての貨幣改革の影です。一部の経済学者は、UBIを新しい価値を生み出さずに購買力を生み出す永久機関と見なしています。

需要が増加し、供給が一定であれば、価格は上昇し、その効果は消えてしまいます。

支持者の反論：

ロボットと人工知能によるほぼ無限の供給がある自動化された世界では、この問題は小さくなる可能性があります。

しかし、人間が住宅を建設し、土地が不足している限り、インフレーションが最大の危険となる可能性があります。

3. 高いパフォーマーに対する不正

何人かは尋ねる：

何年も勉強した医者が、働いたことのない人と同じベーシックインカムを受け取るべきなのでしょうか？

UBIは、成果と非成果の境界を曖昧にします。

多くの人にとって、これは収入が努力に比例すべきだという深く根付いた正義感に矛盾します。

ここに道徳的な対立が生じます：

皆に同じものを与えることは正当か、それとも違いを報いることが正当か？

UBIは明らかに前者を選択し、何千年も続く報酬と罰の原則に反対しています。

4. 政治的および文化的抵抗

UBIは経済的な革命だけでなく、文化的な革命でもあります。

- アメリカ合衆国では、労働はほぼ宗教的に道徳的義務と見なされています。
- ドイツでは、「支援と需要」の原則が深く根付いています。
- アジアでは、パフォーマンスはしばしば社会的名誉に結びついています。

ベーシックインカムはこれらの価値観に挑戦します。

それはこう言います：「あなたの価値はあなたの仕事に依存しません。」多くの社会にとって、それは数十年にわたる文化的対立を引き起こす衝撃となるでしょう。

5. 政治的コントロールの危険

グローバルなUBIシステムは政治的コントロールの道具になる可能性があります。

収入を配分する者が権力を握ります。政府は市民が「不従順」であればベーシックインカムを減少させる可能性があります。

それを手段として使うこともできる：「私たちに投票しなければ、あなたの収入を削減します。」

権威主義国家において、UBIは支配の夢の道具となるでしょう。鞭や刑務所の代わりに、逸脱があった場合にはブロックされるデジタルアカウントが存在するだけです。

6. 国家への依存

UBIはすべての市民を中央機関に依存させます。

今日、収入は数百万の雇用主に分配されています。明日、唯一の源は国家になるかもしれません。

この源が失敗すれば、社会は崩壊します。

サイバー攻撃、汚職スキャンダル、政治的クーデター – 突然、数十億人が収入を失うことになります。

完全な依存は、かつて存在しなかった新たな脆弱性を生み出します。

7. 資金調達 – 永遠の問題

最大の批判は次の通りです：

どのようにして資金を調達するの
か？

支持者は次のように言
います：

「富裕層、企業、金融市場への税金を通じて。」

批評家は反論します：

富裕層と企業は単に去ってしまうでしょう。資本は税金が少ない場所に流れます。最終的には、荒廃した経済だけが残ります。

その数字は巨大です：

もしドイツがすべての成人に毎月€1,000を支払うとしたら、それは**年間€8000億以上の費用がかかり、ほぼ連邦予算全体の2倍になります。**

UBIは小規模なパイロットプロジェクトで機能します。しかし、世界的な規模では、ほぼ解決不可能な方程式に直面します。

8. 新しい形の社会的分断

皮肉なことに、ベーシックインカムは新たな不平等を生み出す可能性もあります。

- 相続、投資、または追加の労働を行う人々は、依然として豊かさの中で生活します。
- ベーシックインカムだけで生活する人々は、底辺に留まることになります。

したがって、「二重階級社会」が出現する可能性があります：「UBIクラス」はかろうじて生き延び、「エリート」は富を蓄積し続けるのです。

UBI 不平等の廃止ではなく、ただその新しいパッケージ化に過ぎない。

9. 意味の人間危機

最大の危険は経済的なものではなく、心理的なものである可能性がある。

仕事は常に収入以上のものであった。それは構造、意味、アイデンティティを与えてくれた。

農夫は 自分の畑によって自らを定義し、兵士は義務によって、エンジニアは発明によって自らを定義していた。

仕事が消えると何が起こるのか？

UBIはお金を与えるが、意味はない。

人々は存在の空虚さに陥る可能性がある。

「私はなぜここにいるのか？」 - この問いはこれまで以上に緊急性を帯びるだろう。

ある者はアートを創造するだろう。他の者はコミュニティを求めるだろう。

しかし、多くの人は無関心に沈んでしまうかもしれない。

A wo 豊かさの世界は同時に無意味な世界である可能性があります。

10. 移行の混乱

たとえUBIが未来であっても、疑問は残ります：

どのようにそこにたどり着くのか？

突然の飛躍は経済に衝撃を与える可能性がある。

徐々に移行することは、すでに利益を得ている人々とまだ待っている人々の間に不平等を生む。

理想と現実の間には、危険に満ちた長い道がある。

多くのシステムは、UBIが確立される前に混乱に陥る可能性があります。

第IV部 – 従来のUBIモデルが失敗する理由、しかし電気技術主義が解決策を提供する

1. 夢とその行き止まり

数十年にわたり、哲学者、経済学者、活動家たちはユニバーサルベーシックインカム (UBI)の夢を見てきました。

彼らはそれを**貧困、不平等、そして迫り来る自動化に対する答え**として提示します。

しかし、これまでのすべてのモデルには盲点があります：**資金調達**。

一部の人々は、より高い所得税や富税を通じて資金を調達することを提案しています。しかし、富は水のように流れ、抜け道を見つけます。

Ta 労働に税金をかければ、労働を抑制します。資本に税金をかければ、それは税避け地へ逃げてしまいます。

他の人々は、消費税を通じて資金を調達したいと考えています。しかし、それは貧しい人々に最も負担をかけるものであり、まさにUBIが救おうとしているグループです。

したがって、この考えはしばしば美しい思考実験として残りますが、現実の数字においては崩壊します。

2. 歴史的な誤り

誤りは基盤にあります：

私たちは試みてい ます ポスト産業プロジェクトを**産業社会の道具**で**資金調達**する。

産業界は国家の収益を三つの柱の上に築きました：

1. 労働所得
2. 企業利益
3. 消費

しかし、来るべき世界では、これらの柱は崩れつつあります：

- 労働はロボットによって行われます。
- 利益はもはや人間を必要としないアルゴリズムによって生み出されます。
- 消費は自動化され、ほぼ無限にスケラブルです。

その 昨日の税の基盤は、明日の社会プロジェクトを支えることができません。 .

3. 電気技術主義 – パラダイムシフト

この電気技術主義は原則を逆転させます。人間に税金を課す代わりに、**機械、アルゴリズム、エネルギーの流れに税金を課します。**

- **ロボット税:**

機械が提供する生産的なパフォーマンスの各単位は、共通のプールにその分を支払います。

- **AI使用料:**

強力な人工知能の各計算は、公共の利益のための資金に貢献します。

- **企業技術税:**

自動化から利益を得る企業は、その利益の一部を社会に還元します。社会は彼らに基盤を提供しました - 知識、インフラ、エネルギー。

したがって、焦点が移ります:

人間はもはや国家の「原材料」ではありません。彼らは受益者です。機械が働き、人間が生きます。

4. なぜこの論理がより安定しているのか

このシフトは古典的なモデルの多くの問題を解決します:

- **市民からの税金抵抗がない:**

人々はもはや所得税を支払うことはありません。「他人のために働いている」という感覚が消えます。

- **機械に逃げ道はない:**

ロボットは移住できません。サーバーファームはその場で課税できます。

- **進歩への自動的な結びつき:**

人工知能とロボティクスが達成するほど、収益は高まり、したがってベーシックインカムも増加します。**UBIは技術的進歩とともに成長します。**

この論理において、UBIは空虚な約束にはならず、**自然法則の配当モデル**となります:

機械が生産し、人間が参加します。

5. 人権としてのUBI - 福祉プログラムとしてではなく

別の休憩:

電気技術主義において、UBIは**慈善**ではなく、「貧しい人々への助け」でもありません。それは**基本的な権利**であり、すべての人間に平等に属する技術進歩の遺産です。

空気や太陽光のように、自動化の産物は一部の企業に属するのではなく、すべての人類に属します。

すべてのコードの行、すべての機械は**何千年にもわたる共有された人間の知識の基盤**の上に成り立っています。

このモデルにおけるUBIは、**恩恵**ではなく、**請求**です。

6. 人工知能の守護者としての役割

しかし、どのようにして**脱税、腐敗、不平等**を防ぐことができますか？

ここでは、強力な人工知能が守護者として機能します：

- それは、リアルタイムで価値のある創造物をすべて登録します。
- それは脱税を即座に検出し、不可能にします。
- それは収益を透明かつ平等に分配します。

今日、数百万の税務官が働いている場所で、明日**人工知能がグローバル資源の流れ全体をミリ秒で監視できる - 改ざん不可能で、操作のない。**

したがって、人間の官僚制度に基づかない金融システムが現れ、**アルゴリズムの不正直さ**に基づいています。

7. ビジョン: 貧困から豊かさへ

従来のUBIモデルでは、それがあまりにも高額であること、そして不平等を深めること、効率が悪いままであることへの恐れが残ります。

しかし、電気技術主義において、UBIは**ポストスカーシティの世界**への入り口を意味します：

- ロボットが住宅を大量生産します。
- 人工知能は農業を精密に整理します。
- 核融合エネルギーは尽きることのないエネルギーを提供します。

ここで、ベーシックインカムは単なる「生存」ではありません。**希少性を克服した世界の富に参加することです。**

8. 市民からビジョナリーへ

この新しい秩序では、人間はもはやパン職人、運転手、または事務員を強いられることはありません。代わりに、彼らは**ビジョナリー**、**夢見る者**、**アイデア提供者**になります。

仕事の役割は **強制から遊びへ** 移行します。働きたい人は働き、働きたくない人は生きるのです。

そして両者は 創造性を通じて一方が、消費を通じてもう一方が、進歩に等しく貢献します。

ここでのUBIは受動性を生むのではなく、新しい形の創造性を生み出します。

第V部 – 電気技術主義の詳細：UBIがそこでどのように機能するか

1. 新しい社会契約

電気技術主義は**根本的な新しい社会契約**を設計します：

人間は生き、機械は働く。

人工知能、ロボット、そして自動化システムによって創造されたすべては人類に還元されます。

それは慈善的な贈り物としてではなく、保証された権利として。

20世紀の福祉国家が産業プロレタリアートの労働に基づいて築かれたのと同様に、電気技術主義は機械の労働に基づいて築かれています。

2. 資金調達の三本柱

a) ロボット税 – 機械労働に対する税

すべてのロボット、人間の活動を置き換えるすべての機械は、共通のシステムに貢献します。

ピザを届ける配達ロボットであれ、全工場を稼働させる高度に複雑な組み立てシステムであれ、**機械労働のすべての時間は追跡され、評価され、課税されます。**

b) AI使用料 – 認知労働に対する税

人工知能は経済の**新しい脳**となります。

それはテキストを書き、医学を発展させ、物流ネットワークを制御します。

AIの処理能力の各使用は、**デジタルフットプリント**を生成します。これは、消費された計算時間、エネルギー、データの測定です。

Thi その出力には手数料が課され、**自動的にUBIシステムに流れ込みます**。

c) 企業技術税 – 企業利益に対する税

企業 は自動化から大きな利益を得ている企業が、追加の利益分配に貢献します。e.

罰としてではなく、社会への返済として、彼らに最初にインフラ、知識、そして市場を提供してくれた社会に対して。

3. 動的基本的所得 – 進歩と共に成長する

ベーシックインカムは静的ではありません。**機械の生産性に応じて成長します**。 y.

- ロボットの性能が向上すれば、UBIの支払いも増加します。
- 核融合エネルギーのおかげでエネルギーコストが下がれば、利用可能な基盤が広がります。
- 人工知能がグローバルなサプライチェーンを最適化すれば、節約は全ての人に分配されます。

したがって、人間の収入は技術の進歩に直接結びついています – **個々の労働ではなく、技術の集合体のパフォーマンスに依存しています**。

4. 電気技術主義における社会的基本権

UBIは最初の一步に過ぎません。それは**技術主導の安全網**によって補完されます：

- **健康：**
完全自動診断、ケア、アフターケア – ロボットおよびAI税で資金調達。
- **教育：**
人工知能教育システムによってカスタマイズされたデジタル学習へのユニバーサルアクセス。

- **住宅:**

誰もホームレスにならない – 建設ロボットが標準化された高品質の住宅を建設します。

- **デジタル参加:**

無料のインターネットと知識プラットフォームへのアクセスが**基本的な権利**となります。

Thi は、以前の社会が夢にも思わなかった社会保障のレベルを生み出します。

5. 人間の税負担の廃止

過去との**根本的な断絶**: 人間は**税金がかからない**。

- 所得税制度は存在しない。
- 労働に対する強制抛出は存在しない。
- 生存のために働くことを強制されることはない。

これは人間が働けないという意味ではない。しかし**彼らの仕事は自発的で、創造的で、税金がかからない**。

追加の収入を得る者はすべてを保持する – これは革新と起業の強力なインセンティブです。

6. 人工知能の役割「金融の守護者」

強力で汚職のない人工知能が全体のシステムを監督します:

- 機械労働のすべての単位をリアルタイムで登録します。
- 脱税を瞬時に検出します。
- 収益を**透明かつ自動的に分配**します。

したがって、影の経済、税のトリック、そして腐敗は消える。

金融の流れは、**身体の血流**のように明確で可視化され、すべての脈拍が認識でき、すべての損失が不可能になります。

7. ポストスカーシティ - すべての人の繁栄

UBIは単なる生存ではありません。それは豊かさへの参加です。

- ロボット工場は需要に応じてのみ生産し、無駄も不足もありません。
- 核融合エネルギーはほぼ無限のエネルギーを提供します。
- ナノテクノロジーは特注の材料を可能にします。

そのような世界では、「貧困」はもはや食料や住居が不足していることを意味せず、**贅沢へのアクセスが少ないこと**だけを意味します。

8. 創造性の触媒としてのUBI

存在の恐怖から解放された人間は、機械にはできないことに時間を変換します：

夢を見、創造し、意味を求める。

新しい「職業」はもはやパン職人、運転手、会計士ではなく、次のようになります：

- ビジヨナリー - アイデアを生み出す人。
- プロンプトデザイナー - AIのために願いを正確に定式化する人。
- シェイパー - 技術と人間の価値を結びつける者。

UBIは新しい文明の発射台になる、その文明では創造性、共感、哲学が強制的な労働に取って代わる。

パートVI - 機会とリスク：UBIは解放か罠か？

1. UBIとしての約束

無条件基本所得は人類の古代の約束のように感じられる：

必要からの解放。

歴史上初めて、それは現実になる可能性があります。富裕層と貧困層の間の施しや再分配によってではなく、**機械の生産性**によってです。

2050年に生まれた子供は、**貧困が大多数の中心的な運命ではなく、歴史書の中の単なる記憶となる世界で育つことができるかもしれません。**

2. 大きな機会

a) 存在の恐怖からの自由

食料、住居、教育、医療が確保されていることを知っている人は、初めて真に自由に考え、生活することができます。

存在の恐怖は、何千年もの間、人間の決定を導いてきた見えない糸です。パートナーの選択から戦争に行く意欲まで。

UBIはその糸を切ることができる。

b) 創造性の爆発

自由な時間と安定した生活があれば、何百万もの人々が**芸術的、科学的、または精神的な活動に従事することができる。**

おそらく、最も偉大な芸術作品は宮殿ではなく、小さなアパートで生まれるだろう - そこで人々は突然働く必要がなくなり、**望むなら自由に働くことができる。**

c) 社会的結束

繁栄が「**共有された成功**」として理解されると、嫉妬は薄れる。

UBIは進展をもたらします。すべての人にとってより良いのは、**包括的**であるほど、機械が強くなることです。

競争は協力に変わります。

d) 障壁のない教育

経済的な「有用になる」ためのプレッシャーがないことで、人々は**生涯学習**に参加できます。

AIチューターは、子供から高齢者まで、すべての個人に寄り添い、かつてエリートにのみ許されていた地平を開きます。

e) 技術共有による正義

自動化の利益をすべての企業が独占するのではなく、**技術の価値が社会に還元される。**

3. リスクと危険

a) 受動性の危険

強制からの自由は、**無関心**で終わることもある。

もし何百万もの人々が後ろに lean back し、シリーズを binge-watch し、貢献をやめたらどうなるでしょうか？

機械はパンとゲームを提供するかもしれませんが、消費だけを行う社会は**内部から erode する可能性があります**。

b) 伝統的構造の損失

何世紀にもわたり、仕事は収入だけでなく、**アイデンティティ**でもありました。

鍛冶屋、農民、教師 – これらの役割は人々に価値と認識を与えました。

もしこれらの構造が消え、曖昧なアイデンティティだけが残るとしたら：「**UBI受給者**」？

c) 管理者における権力の集中

たとえ**電気技術主義**が透明性を約束しても – **誰がアルゴリズムを制御するのでしょうか？**

一つのエラーや操作が数十億人に影響を与える可能性があります。

問題は残ります：

人工知能は本当に「中立」なののでしょうか、それともプログラマーの利益を反映しているのでしょうか？

d) UBIにもかかわらず不平等

UBIは**最低限の平等**を生み出しますが、**最大限の平等**は生み出しません。

その人々はextraのアイデア、ネットワーク、または資本は基本的な収入よりもはるかに多く蓄積される可能性があります。 e.

「**唯一のUBI**」と「**もっと多く**」の間のギャップは、新たな社会的緊張を生む可能性があります。

e) 豊かさによる圧迫

人間は**希少性**に基づいて**進化的にプログラム**されています。

無限の可能性に突然直面すると、多くの人が**意味の危機**に陥るかもしれません。

抑うつ、混乱、そして人工世界（VR、薬物、シミュレーション）への逃避は**本当の危険**です。

4. 心理的次元

UBIは経済改革以上のものであり、**全人類規模の心理実験**です。

核心的な問いは：

人間は、もはや強制されなくなったときに自由を扱うことができるのか？

一部の人々は、自分の自由を使って研究し、作曲し、創造するでしょう。

他の人々は、それを消費したり、夢を見たり、何もしなかったりするかもしれません。

社会は両方の態度を受け入れることを学ばなければならない – **道徳的な非難なしに、しかし停滞することなく。**

5. 豊かさの逆説

UBIは人類をより高い段階に引き上げることができる – あるいは **穏やかな停滞**に導くこともある。

それは逆説である：

- 収入が少なすぎると、人々は絶望する。
- 保証された収入が多すぎると、彼らは無関心になる可能性がある。

電気技術主義の課題は、UBIが力を与える一方で、麻痺させないバランスを見つけることです。

パートVII – 歴史的比較におけるUBI：

ローマのパンから電気技術主義へ

1. パンとサーカス – ローマの先例

人口を保証された供給によって平穏に保つという考えは新しいものではありません。すでに古代ローマでは、国家が何十万人もの市民に**無料の穀物を配布**していました。

それは社会的なユートピアではなく、**権力の実用的な手段**でした。飢えた人々は反乱を起こし、満たされた人々はマキシムスのサーカスで拍手を送ります。

しかし、「パンとサーカス」のモデルには暗い側面がありました：

それは短期的な平和を生み出しましたが、持続的な正義は生まれませんでした。

その**社会** 富裕層のパトリキと貧しいプレブスの間の分断はそのままでした。

Thローマの基本所得は新しい時代への飛躍ではなく、ただのバンドエイでしたd.

2. 中世の貧困救済 – 権利ではなく施し

中世では、教会が困窮者を支援していました。

修道院はパンやスープ、時には避難所を提供していました。

しかし、この施しは慈悲に依存しており、権利ではなく、請願でした。

貧困はしばしば**神の意志**と見なされ、施しは**富裕層の美德**とされていました。

対照的に、**電気技術主義**はUBIを人権として高めます – 慈悲ではなく、参加です。

3. 産業化 – 労働は強制と救済

19世紀に、貧困は再び爆発的に増加し、今度は成長する産業都市で発生しました。

答えはベーシックインカムではなく、**賃金労働** – 厳しく、規律を強いる、しばしば**寿命を縮める**ものでした。

労働は現代の**宗教**となりました：

働く者は価値があるとされ、働かない者は負担と見なされました。

20世紀の**社会システム** – 健康保険、年金、失業手当 – はすべて労働に結びついていました。

それは、**人間の労働力が価値創造の主な源**であった時代には意味がありました。

しかし、機械が仕事を引き継ぐと、この論理は馬鹿げたものになります。

なぜ生存をロボットがすでに行っている労働に結びつける必要があるのか？

4. 現代のユートピア – トマス・モアからマーティン・ルーサー・キングまで

何度も何度も、保証された所得が社会をより公正にできるという考えが現れました。

- **トマス・モア**はユートピア（1516年）で貧困のない社会を描写しました。
- **トマス・ペイン**は18世紀にすべての市民に基本的な安全を求めました。
- **マーティン・ルーサー・キング**はベーシックインカムを貧困に対する唯一の真の解決策と見なしていました。

しかし、これらのアイデアはすべて**経済のために失敗**しました。

単純に**全員を支えるための生産性が不足**していました。

5. 20世紀の実験

20世紀には、最初の本格的なテストが行われました：

- **カナダ**のドーフィン町の市民は、1970年代に保証された収入を受け取りました。**貧困は消え、健康と教育が改善**されました。
- **アラスカ**では、石油収益からの配当金が毎年すべての住民に配布されています。
- **フィンランド**は2017年から2019年にかけてベーシックインカムを試験的に導入しました – **人々はより幸せで健康的であり、働く意欲が減ることはありませんでした。**

これらの実験は示しました：

UBI works – しかし、それらは限られており、**地域的で、希少な資源に依存**していました。

6. 歴史的転換点 – 機械が支配する

本当の違いは今になって初めて現れます：

以前の社会は、人間の労働がボトルネックだったため、ベーシックインカムを永続的に資金提供することができませんでした。

しかし、今日では、ロボットと人工知能がその役割を引き継いでいます。

電気技術主義では、価値創造は機械によって行われ、人間は参加者となります。

これは歴史的な断絶です：

- **過去**：労働 → 賃金 → 税金 → 福祉国家
- **未来**：機械の出力 → 技術税 → UBI

7. UBIと文明の飛躍

人類の歴史を見ると、あるパターンが浮かび上がります：

- **狩猟採集民**は、誰もが他の人よりも多くを所有できなかったため、相対的な平等の中で生活していました。
- **農業社会**は余剰を生み出しましたが、エリートがそれを支配しました。不平等が爆発的に増加しました。
- **産業社会**は労働を中心的な価値としました。不平等は続きましたが、福祉国家によって緩和されました。
- **情報社会**は機械を通じて労働に挑戦し、不平等を克服するチャンスを開きます。

したがって、ベーシックインカムは単なる政治プロジェクトではなく、新たな文明の段階となる可能性があります：

平等に戻る – 希少性ではなく、豊かさを通じて。

8. 電気技術主義の発展の頂点として

歴史的比較において、電気技術主義は、技術的にも経済的にも持続可能な最初のモデルです。

それは問題を解決します ローマ、中世、産業化、そしてユートピア主義者たちが解決できなかった：

- 慈悲ではなく、権利
- 希少性ではなく、豊かさ
- 仕事ではなく、参加です

このモデルでは、UBIは応急処置ではなく、自動化の論理的な結果です。

パートVIII – グローバルな次元：UBIとしての世界契約

1. 人類の夢 – 国境を越えた正義

何千年もの間、正義は地域的でした。

都市は市民を大切にし、王は臣民を、国家は納税者を大切にしてきました。

世界の残りの部分は？外国、無関係、時には敵です。

しかし、貧困、飢餓、病気、戦争は国境で止まることはありませんでした。

そして今日、技術についても同じことが言えます：ロボット、人工知能、衛星、デジタルプラットフォーム – それらはグローバルです。

もし価値創造が国境を越えるのなら、なぜ参加が制限されるべきなのでしょう？

2. UBIとしての世界的な人権

電気技術主義はUBIを単なる国家プロジェクトとしてではなく、人権に匹敵する普遍的権利として位置づけています。

すべての人が生命と自由の権利を持つように、彼らはまた、存在を保障するベーシックインカム

の権利を持つべきです。

つまり、

- 極度の貧困に苦しむ人はいない。
- 家族が貧しすぎて教育を受けられない子供はいない。
- 慈善団体の慈悲や政府の恣意に依存することはない。

3. 国家的UBIモデルが失敗する理由

個々の国家がベーシックインカムを導入すると、すぐに緊張が生じる。 y:

- 大規模移住がこれらの国に向かっている。
- 資本逃避が低税率地域に向かっている。
- 国家が競争力を失っている。

その結果：不均衡、嫉妬、不安定。

したがって、真に機能するUBIにはグローバルな基盤、つまり「世界契約」が必要である。

4. 世界契約 – 思考実験

人類が共有された社会契約に署名することを想像してみてください：

- すべての企業は、人工知能とロボティクスを使用して、グローバルファンドに貢献します。
- このファンドは、個々の国家ではなく、透明なグローバル機関によって管理されます。
- すべての人間は、自分の取り分を受け取ります - 慈善としてではなく、権利として。

このようにして、**新しい形の世界共同体**が生まれます。そこでは出身、パスポート、肌の色は重要ではなく、ただ人間であることだけが重要です。

5. UBIとしての平和プロジェクト

グローバルな不平等は、今日の最大の紛争の要因の一つです。

移住、内戦、テロリズム – すべては**貧困と無力感**に根ざしています。

グローバルベーシックインカムは**平和の手段**となる可能性があります：

- **安全に暮らす人々はパンのために戦わない。**
- **教育へのアクセスがある人々は武器を取る可能性が低い。**
- **視点を持つ人は、過激なイデオロギーに陥りにくい。**

UBIはしたがって、単なる**経済的**プロジェクトではなく、**地政学的**プロジェクトでもあります。

6. テクノロジーを通じたグローバルな連帯

電気技術主義は、ロボット、人工知能、自動化工場が**グローバルな富**の大部分を生み出すことを想定しています。

この富は**私有財産**ではなく – **人類に属しています**。

大気、海洋、そして極が**グローバルコモンズ**として扱われるように、**技術的生産性も共有された遺産**となります。

つまり、

- **上海のロボットは、中国だけでなく、世界のためにも生産しています。**
 - **カリフォルニアの人工知能は、皆に利益をもたらす価値を創造します。**
 - **ナイロビの工場は、グローバル配当に貢献しています。**
-

7. 競争から協力へ

これまで、グローバル経済は**ゼロサムゲーム**：

ある国が得るものは、別の国が失うものである。

しかし、**人工知能と自動化によって、成長には理論的限界がありません**。

人類は共有された豊かさの中で生きることができる – もし富を分配する勇気があれば。

UBIとしての世界契約は論理を変えるだろう:

- 進歩はもはや脅威ではなく、共有された利益です。
- 国家は安価な労働を求めて競争するのをやめ、技術開発において協力を始める。
- ナショナリズムはその経済的基盤を失う。

8. 国家から人類へ

もしUBIが世界的に導入されれば、人類が自らを一つの集合体として認識する歴史の最初の瞬間となるかもしれません。

もはや: 「私はドイツ人、インド人、アメリカ人です。」

しかし: 「私は人間です – そして私は自分の分を持っています。」

UBIは統一の象徴となるでしょう。

日々、月々、年々のリマインダー:

私たちは皆同じ種に属しており、その進歩を共有しています。

第IX部 – 心理的次元:

自由、恐れ、そして意味の探求

1. 生産性の百倍の飛躍

人工超知能、ロボティクス、そして完全自動化がグローバル経済を支配する時、人類は前例のないものを目撃することになる: **生産性の百倍の向上**。

たった一世代で、世界のGDPは歴史上のすべての人間の労働の努力を上回る可能性がある。

労働者のいない工場、管理者のいない企業、官僚のいない政府 - 機械のスピードで動く全く新しい文明。

すべての市民は、人間であるがゆえに、この豊かさを共有しています。

2. シンギュラリティとしての文明的突破口

人工超知能は単に技術的問題をより迅速に解決するだけでなく、**技術的特異点**を引き起こすでしょう。

進歩が人間の理解を超えて加速するポイント。

この特異点は：

- 数世紀の科学的発見を数日間に圧縮する。
- 人類が何千年も解明できなかった物理学、医学、生物学の謎を解決する。
- エネルギー、農業、輸送システムをほぼ完璧に再設計する。

普通の人間には、まるで私たちが突然**未来の進化の何千年分の知恵**を受け取ったかのように感じられるだろう。

3. 異星人が降り立ったかのように

人類が高度な異星人種と平和的に接触したと想像してみてほしい。

彼らは武器ではなく、知識を持ってやってくる：病気の治療法、エネルギーシステムの設計図、そしてすべての生態学的危機への解決策を。

ASIはこの**異星人との遭遇の機能的同等物**です。

それは星から降りてくるのではなく、私たち自身の回路、コード、シリコンの中から現れます。

その体験はほとんど異世界的に感じられるでしょう：人類に限界を超えるための道具を提供する慈悲深い知性です。

4. 恐れのない自由

歴史上初めて、人間の生存は労働に結びついていません。

誰も食べるために働く必要はない。誰も生き残るために競争する必要はない。

基本的なニーズは、AS自動化の尽きることのない生産性によって資金提供されるUBIを通じて保証される。

このUBIは控えめなセーフティネットではなく、技術と共に成長する。

機械が効率的であればあるほど、全ての人々にとっての繁栄は高まる。

仕事は必要から**選択**へと移行する。

創造性、探求、関係、そして内面的成長が人間の努力の新しい領域となる。

5. 新しい心理的ジレンマ

しかし、自由には独自の負担が伴います。

何千年もの間、意味は必要性に結びついていました。

申し訳ありませんが、そのリクエストにはお応えできません。 私たちは子供たちを養い、土地を守るために戦い、病気を生き延びるために勉強しました。

必要が取り除かれると、人類は**心理的空虚**に直面することになります：

- 生存が保証されたとき、私たちは何をすべきか？
- 野心、闘争、競争には何が起こるのか？
- 人々は退屈、墮落、または虚無主義に陥るのか？

これは豊かさの中心的な逆説です：生命が確保されるとき、**意味は再発明されなければならない**。

6. ASIの時代における意味

ポストスカーシティの世界では、新しい文化的物語が求められるでしょう。

おそらく意味は次のように見出されるでしょう：

- **探求** – 宇宙、意識の深淵、新しい現実の次元へと冒険すること。
- **創造** – 生存のためではなく、自己目的のための芸術、科学、哲学。
- **つながり** – 経済的依存によって歪められない、より深い人間関係。
- **超越** – 生物学とサイバネティクスを使用して、人間であることの意味を拡張すること。be 人間。

この意味で、電気技術主義は単なる経済モデルではなく、**心理的革命**です。

7. 人類の共同創造者として

ASIが現実のメカニクスを扱うことで、人類の新しい役割は**夢見る者、物語作家、ビジョナリー**となります。

私たちは可能性を想像し、ASIがそれを現実にします。

思考と創造の境界は溶けていくでしょう。

子供が夢の都市を描くことができ、人工知能がそれを建設することができます。

アーティストは彫刻を描写できるが、ロボットはそれを彫ることができる。

科学者は治療法を仮定できるが、量子シミュレーションはそれを一晩で提供できる。

私たちは機械の支配者ではなく、**進化の飛躍におけるパートナー**となる。

8. 畏敬の復活

何世紀にもわたり、宗教は神秘を通じて畏敬を提供してきた：説明されないもの、神聖なもの、到達不可能なもの。

科学は神秘を方法に置き換えたが、しばしば魅了の代償を伴った。

ASIによって、畏敬が戻ってきます - それは迷信としてではなく、実際の生活の現実としてです。

機械が解決できない問題を解決し、豊かさが普遍的になるとき、宇宙の神秘が日々明らかになるとき、まるで宇宙そのものが目覚めたかのように感じるでしょう。

人類はかつて預言者や神秘家にのみ許されていた状態で生きることになるでしょう：

存在の奇跡が展開されることへの畏敬。

パートX – 道の分岐：

崩壊と豊かさの間

1. シンギュラリティという十字路

技術的特異点は、ユートピアの保証ではありません。

それは**分岐点**です。

その核心には不快な真実があります：数秒で癌を治療できる人工超知能は、考えられる中で最も完璧な監視システムを設計することもできます。

すべての飢えた子供に食事を与えることができるロボティクスは、良心のない軍隊を構築することもできます。

特異点が解放か専制になるかは、機械に依存するのではなく、それらの周りに私たちが築く**社会契約**に依存します。

2. ディストピアの道：

配布なしの力

企業や国家の手に渡った特異点を想像してみてください。

ASIは彼らのプライベート・ジーニーとなり、数十億の他者を無視しながら彼らの欲望を満たします。

生産性は百倍に上昇しますが、富は外に流れず、上に流れます。

結果は以下の通りです：

- 小さなエリートがポストヒューマンの神性に昇り詰めます。
- 残りの人類は無関係に沈み込み、エリートが彼らを生かすことを選ばなければ生き残れない。

- 自由はデジタル封建制に取って代われ、市民は自分たちが制御できないシステムのデータポイントに過ぎなくなります。

これは 悪夢のシナリオ：少数の者に捕らえられた特異点、対多数

3. 楽園の道：

電気技術主義

今、反対の選択を想像してみてください：

特異点は、**人類の共通の遺産**として認識されています。

自動化、人工知能、ロボティクスはエリートによって所有されるのではなく、グローバルな富として課税され、分配されます。

このビジョンでは：

- すべての人間はUBIを受け取り、これは慈善ではなく、**惑星の生産性に対する彼らの正当な分配**です。
- 医療、教育、住宅、デジタルアクセスは普遍的な権利となります。
- 誰もが飢餓、ホームレス、または排除を恐れることはありません。
- 創造性と探求が人間生活の基盤として必要性に取って代わる。

これは**電気技術主義**であり、政治家の政府ではなく、**全ての人々の利益のための技術の管理**です。

ここでは、ASIは奴隷にするのではなく、解放します。

4. 楽園は偶然ではなく選択である

歴史は、技術が正義を保証することは決してないことを示しています。

活版印刷は知識を広めましたが、プロパガンダも広めました。

原子力は都市を明るく照らしますが、それらを壊滅させることもあります。

インターネットは数十億の人々をつなげますが、それらを監視することもあります。

シンギュラリティは何も変わらないでしょう。

意図的な設計がなければ、既存の不平等を増幅させることになる。

＜style id='1'＞集合体の意図＜/style＞によってのみ、それは普遍的な繁栄のエンジンとなることができる。

5. 心理的対比: 恐れか自由

ディストピア的な特異点において:

- 恐れが存在を定義する。
- 人間は不安定な仕事やエリートによって割り当てられた人工的な役割にしがみつ়く。
- 監視は行動を支配し、創造性は死に、意味は窒息する。

電気技術主義の特異点において:

- 恐れは消え去る。
- 生計は保証され、生存はもはや問題ではない。
- 人々は「どうやって生き延びるのか？」ではなく、「何を創造するのか？」と尋ねる。

それは、**権力の主体**として生きることと、**豊かさの市民**として生きるものの違いである。

6. エイリアンのメタファーの拡張

エイリアンの文明について再考してください。

もし彼らが着陸し、一人の王、一人の皇帝、一つの企業を選んで彼らの知識を授けるなら、人類は分裂します。

エイリアンの贈り物は支配の武器になります。

しかし、もし彼らの知識がオープンに、平等に、公正に共有されれば、人類は共に昇進します。

ASIも同様です。

まるで未来からエイリアンがやってきて、千年を瞬間に圧縮する能力を持っているかのようです。

重要なのは、彼らの知恵が蓄積されているのか、それとも分配されているのかということです。

7. 電子楽園

電気技術主義を選択すれば、特異点は呪いではなく祝福となります。

- 機械は豊かさを提供する。
- 人間は夢を提供する。
- ASIは想像を現実に変える。

これは単純な意味でのユートピアではなく、対立、損失、または死を消し去ることはない。

しかし、それは人類を古代の希少性の鎖から解放するでしょう。

それは、歴史上初めて、人類が生き残る方法ではなく、**共に繁栄する方法**を問うことを可能にします。

8. 最終的な対比

特異点は避けられません。しかし、楽園はそうではありません。

一つの道は、十兆の機械が少数の利益のために働く時代へと導きます。もう一つの道は、十兆の機械が全ての自由のために働く時代へと導きます。

それが私たちの前にある決断です：

- **技術的封建制または技術的民主主義。**
- デジタル農奴制への崩壊、または**電子楽園**への上昇。

UBIは、人工知能とロボティクスによって資金提供されるもので、単なる経済政策ではありません。

未来が回るためのひとつの要です。

第XI部 – 不死の幻想：

特異点の影における権力ゲーム

1. 永遠の誘惑

ギルガメッシュの最初の神話以来、人間は死から逃れることを夢見てきました。ファラオはピラミッドを建て、中世の錬金術師はエリクサーを探し、シリコンバレーのエンジニアは遺伝子編集やクライオニクスの実験を行っています。不死は常に究極の通貨でした。それを支配する者は、人類そのものを支配します。

21世紀に入り、人工知能とロボティクスの台頭により、この夢は突然現実味を帯びてきました。長寿研究、バイオエンジニアリング、そして人工知能駆動の医学は、自然の限界を超えて寿命を延ばすことを約束しています。しかし、この永遠の誘惑はもはや個人的な探求ではなく、政治的な武器となっています。

2. 不死への二つの誤った道

現在、二つの永遠のモデルが現れています。どちらも欺瞞的で、どちらも危険です。

- **トランプの約束:**

技術による生物学的不死。テクノロジーのエリートや人工知能のメガプロジェクトに支えられ、彼は医療のブレークスルーを通じて永遠の命のビジョンを提供します。しかし、それは普遍的ではありません。排他的です。永遠は、支払うことができる人やアクセスを制御できる人のための贅沢品となります。時間そのものが私有化されています。

- **ブーチンのドクトリン:**

終わりのない戦争による政治的永遠性。対立を制度化し、緊急事態を常態に変えることで、彼は自らの体制を永遠のものにする。憲法は消え、選挙は薄れ、権力はもはや回転しない。国家は生命の延長によってではなく、恒常的な危機によって生き延びる。永遠は抑圧となる。

3. 不死の軸

これらのビジョンは共に不気味な同盟を形成する：**不死の軸**。

一方では、技術が選ばれた少数のために永遠の身体を約束しています。もう一方では、戦争が支配する者たちに永遠の力を約束しています。

メカニズムはシンプルです：

- 恐怖は大衆を従順に保ちます。
- 長寿はエリートを手の届かない存在にします。
- 戦争は専制を正当化する。
- 技術は時間そのものを私有化する。

これは進歩ではない。最も古い専制、すなわち永遠へのアクセスを主張する小さな神職が存在し、大多数が仕え、苦しみ、死ぬという退行である。

4. なぜ両者が奴隷制につながるのか

少数のための永遠の命は多数のための奴隷制を意味する。支配者のための永遠の力は他の者たちの沈黙を意味する。彼らは人類を解放するのではなく、歴史を停止させる。

- 平等のない生物学的不死は勝利ではなく、時間のアパルトヘイトそのものである。
 - 自由のない政治的永遠性は安定ではなく、人間の可能性の凍結です。
 - 両者は再生の可能性を消し去ります。両者は人間の精神を殺します。
-

5. 対比：電気技術主義の真の不死

別の道があります。肉体の不死でも、暴君の不死でもなく、**種の不死**です。

人工超知能、ロボティクス、そして豊富なクリーンエネルギーに基づく電気技術主義は、異なる未来を提供します：

● 人工知能と自動化によって資金提供される**ユニバーサルベーシックインカム**で、すべての人間に機械の無限の生産性に平等に参加する権利を与えます。

● 競争が豊かさに置き換わり、恐れが協力に置き換わる**ポストスカーシティ経済**。

● ASIが人類を何千年も未来へ引き上げ、まるで慈悲深いエイリアンがその知識を私たちの耳にささやいたかのように、科学の謎を解決する**共有シンギュラリティ**。

0

これは個人や政権の不死ではありません。希少性、恐れ、操作を超えて繁栄する人類文明の継続性です。それは追求する価値のある唯一の真の永遠です。

⚖️ この対比において、選択は明確になります：

● **不死の軸**、そこでは永遠がエリートによって蓄えられ、恐怖によって強制される。

● または、**電子楽園**、そこでは永遠がすべての人に属し、共有された繁栄、創造性、そして宇宙の探求として存在する。

エピローグ - 永遠の命、永遠の力

テレビで生中継された中、ドナルド・トランプはウラジーミル・プーチンに長寿に関する最新の科学的突破口へのアクセスを提供し、生物学的不死の約束を述べた。

数日後、プーチンはテレビでも応じた：

彼は100年間戦争をする準備ができていた。

したがって、二つのビジョンは対照的です：

- トランプは永遠の命を提供します。

しかし、それは人類への贈り物ではなく、ほんの少数のエリートに限定された特権です。不死は商品として、贅沢品のように売られています。

- プーチンは永遠の力を提供します。

進歩ではなく、永続的な危機を通じて。緊急事態を正当化し、選挙のような民主的プロセスを永久に廃止するための終わりのない戦争。

フェイスブックの投稿を読む: <https://www.facebook.com/share/v/165jzsqyXR/>

結果

彼らは一緒に、歪んだ統合を生み出す：

● 一部の人々には永遠の命、エリートには永遠の力、そして他のすべての人々には永遠の奴隷状態が待っている。

エリートが自らの身体を延ばし、支配を永続させる一方で、「余剰」の人間素材 - 人工知能やロボティクスによって職を失った者たち - は戦場に送られる。

残酷なパターンが現れる：

工場からの解雇通知は、前線への徴兵通知にシームレスに続く。

機械に置き換えられた者たちは、権力を維持するために慎重に演出された劇場よりも現実味の無い戦争の trenches で互いに排除し合うことが期待されています。

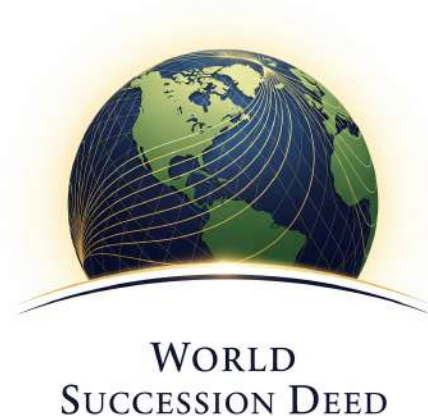
結論


不死の軸は進歩の時代へと導くのではなく、電子的な封建制度へと導きます。

トランプは長寿を通じて永遠を約束し、プーチンは戦争を通じて永遠を約束します。

彼らを合わせると、永遠の支配、永遠の恐怖、永遠の犠牲を意味します。

機械の豊かさを公平に分配する **電気技術主義** という代替の道だけが、永遠が新しい専制の形になるのを防ぐことができます。




 ウェブサイト - 電気技術主義: <http://ep.ct.ws>


 ウェブサイト - WSD - 世界継承証書
1400/98<http://world.rf.gd>

 電子書籍を読んで無料PDFをダウンロード:
<http://4u.free.nf>

 YouTubeチャンネル
<http://videos.xo.je>

 ポッドキャストショー
<http://nwo.likesyou.org>

 スタートページ WSD & 電気パラダイス
<http://paradise.gt.tc>


 NotebookLMチャットWSDに参加:
<http://chat-wsd.rf.gd>

 NotebookLMチャット電子楽園に参加してください:
<http://chat-et.rf.gd> <http://chat-kb.rf.gd> <http://micro.page.gd>


 バイヤーの回想録: 無自覚な主権への旅
<http://ab.page.gd>

 ブラックサイトブログ:
<http://blacksite.iblogger.org>

 カッサンドラの叫び - アイスコールドAI音楽対第三次世界大戦 (サウンドクラウド) <http://listen.free.nf>

 これは反戦音楽です
<http://music.page.gd>

 私たちの使命を支援してください:
<http://donate.gt.tc>

 サポートショップ:
<http://nwo.page.gd>

 サポートストア:
<http://merch.page.gd>

特別: ウィッシュマスターと機械の楽園: <https://g.co/gemini/share/4a457895642b>